

第2章 地域の概況

2.1 位置及び地勢

宝塚市は阪神都市圏の中央背後部に位置し、市域面積 101.89km²、海拔最高 571m、最低 19m（高低差 552m）、広ぼう東西 12.8km、南北 21.1km の都市である。北東部は猪名川町、東部は川西市、南東部は伊丹市、南西部は西宮市、西部は神戸市、北西部は三田市とそれぞれ接し、大阪、神戸から 20km 圏内に位置している。

なお、本市の地点は北緯 34 度 46 分 8 秒～ 57 分 33 秒、東経 135 度 24 分 59 秒～ 16 分 38 秒の間にある。

地勢は市域中央やや南より北摂連山長尾山系が東西に横たわり、地理的条件から南部の市街地と北部の農山村地域に分断されている。

南部地域は、北摂連山の南向き斜面の縁に囲まれ、ほぼ中央部を武庫川が北西上流から東南方向へ湾曲しながら南方下流へ流れ去り、武庫川を挟むように市街地を形成している。地形については、武庫川沿いは比較的なだらかであるものの、阪急宝塚線以北や阪急今津線以西では山麓部地域になり、高低差の大きい地形となっている。

一方、北部地域は、海拔 300m ないし 500m の丘陵山地部と、なだらかな平坦部に小規模な集落が点在している農林業地域となっている。



図 - 1 宝塚市の位置

2.2 沿革

宝塚市は昭和 29 年 4 月 1 日、川辺郡宝塚町と武庫郡良元村との合併により市制を施行して、翌年、川辺郡長尾村（一部を伊丹市に編入）と西谷村を合併し、現在の宝塚市が誕生した。

市内には、大小 200 基を超す古墳が残っていることからわかるように、古くから人々の営みが続けられた土地で、市内に残る古墳の中には、後世、人々に幸せをもたらす「宝の塚」として親しまれたものがあり、これが宝塚という地名の由来になったと伝えられている。

本市が観光の街として歩み出したのは、明治 20 年に宝塚温泉が開業して以来で、明治の中・後期にかけて阪鶴鉄道（現在の JR 福知山線） 箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄）が相次いで開通した頃からである。さらに、明治 44 年、武庫川右岸に宝塚新温泉が開湯、大正 3 年には、宝塚少女歌劇（現在の宝塚歌劇）ができ、その後、宝塚は「歌劇と温泉の街」として広く知られるようになった。

今日、豊かな自然環境とあいまって、大都市近郊の良好な住宅都市として、また、歌劇や温泉をはじめ、寺社仏閣、植木産地等が市内に散在し、個性豊かで魅力あふれる観光、演劇、レクリエーション都市としての性格も有している。

2.3 人口構造等

(1) 人口・世帯数の推移

表 - 1 宝塚市の人口・世帯数の推移（資料：国勢調査）

本市の人口及び世帯数の推移を図 - 2 に示す。人口は平成 12 年の時点で 213,037 人であり、昭和 40 年代には年平均約 7 % の高い伸びを示した人口増加率も、昭和 50 年をピークに鈍化し、最近では低い人口増加率となっている。

このことから、本市は成熟期を迎えているといえる。

年次	世帯数	人口（人）			人口増加率 対S45比
		総数	男	女	
S45	35,378	127,179	62,620	64,559	-
S50	47,083	162,624	80,326	82,298	1.3
S55	58,300	183,628	89,217	94,411	1.4
S60	62,586	194,273	93,781	100,492	1.5
H2	67,922	201,862	96,806	105,056	1.6
H7	71,363	202,544	96,581	105,963	1.6
H12	79,131	213,037	100,740	112,297	1.7

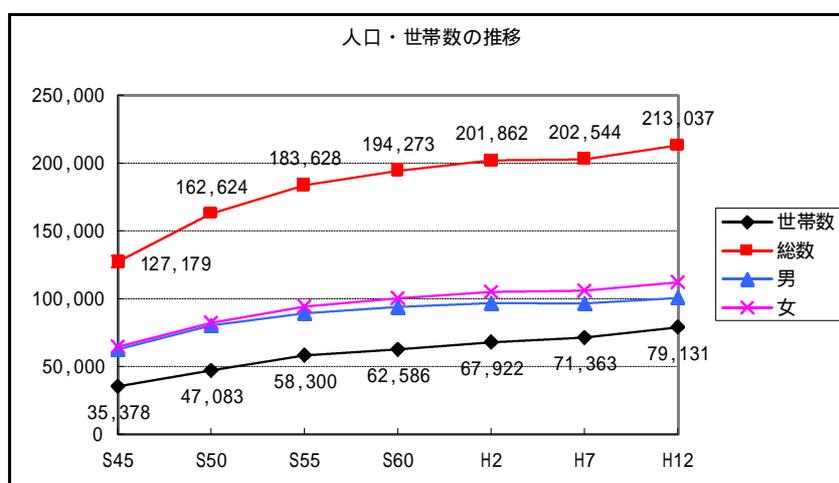


図 - 2 宝塚市の人口・世帯数の推移

(2) 年齢構成の推移

本市の人口と高齢化率の推移を図 - 3 に示す。

昭和 50 年から平成 7 年にかけて人口の伸びは鈍化している反面、65 歳以上人口が増加する少子高齢化傾向を示している。しかも、その傾向は年々大きくなっている。

なお、今後の高齢人口の県全体の推移では、厚生省人口問題研究所における将来予測によれば増加傾向を示し、平成 37 年の老年人口比率（65 歳以上人口比率）は 26.9 % となり、4 人に 1 人以上が 65 歳以上という予測が得られている。

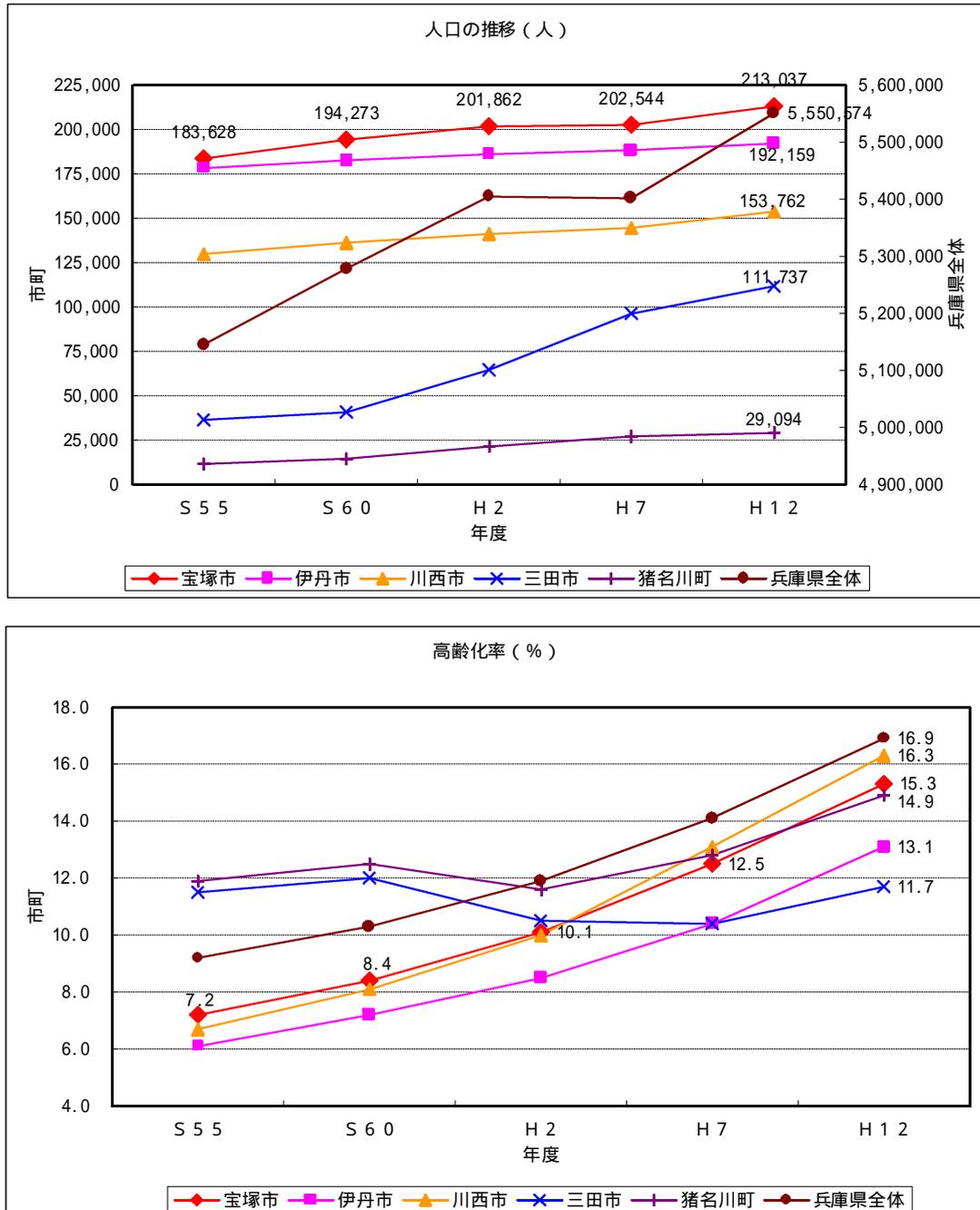


図 - 3 宝塚市及び周辺市町の人口と高齢化の推移 / 資料：国勢調査

(3) 昼夜間人口

年々に昼間人口比率が減少しており、流出超過傾向が進んでいる。

このことから、本市は京阪神都市圏のベッドタウンとしての特性を有していることがわかる。

年次	夜間人口 A	流入人口 B	流出人口 C	差引増減 D=B-C	昼間人口 E=A+D	昼間人口率 (%) E/A×100
S50	162,624	13,658	52,461	-38,803	123,821	76.1
S55	183,552	16,662	60,455	-43,793	139,759	76.1
S60	194,195	18,513	66,798	-48,285	145,910	75.1
H2	201,135	22,061	74,211	-52,150	148,985	74.1
H7	202,439	25,074	76,133	-51,059	151,380	74.8

表 - 2 宝塚市の昼夜間比率 / 資料：宝塚市統計書（平成13年版）

(4) 障害者人口の推移

本市の障害者の状況を表 - 3 に示す。平成7年から平成13年度にかけて、身体障害者数（身体障害者手帳所持者数）知的障害者数（療育手帳所持者数）ともに増加傾向を示している。

なお、平成12年度の身体障害者数の人口に対する割合は2.4%となっている。

表 - 3 心身障害者の状況

年度	身体障害者手帳所持者数						療育手帳所持者数（知的障害者）			
	総数	肢体	聴覚	言語	視覚	内部	総数	軽度	中度	重度
平成7年	3,758	2,064	350	58	354	932	565	121	166	278
平成8年	3,696	2,211	360	63	359	976	579	119	172	288
平成9年	4,184	2,358	347	62	371	1,046	603	132	175	296
平成10年	4,480	2,524	367	71	379	1,139	665	137	196	332
平成11年	4,714	2,671	387	67	381	1,208	698	136	210	352
平成12年	5,047	2,820	406	78	394	1,349	745	150	222	373
平成13年	5,282	2,935	415	75	410	1,447	774	155	232	387

資料：宝塚市統計書

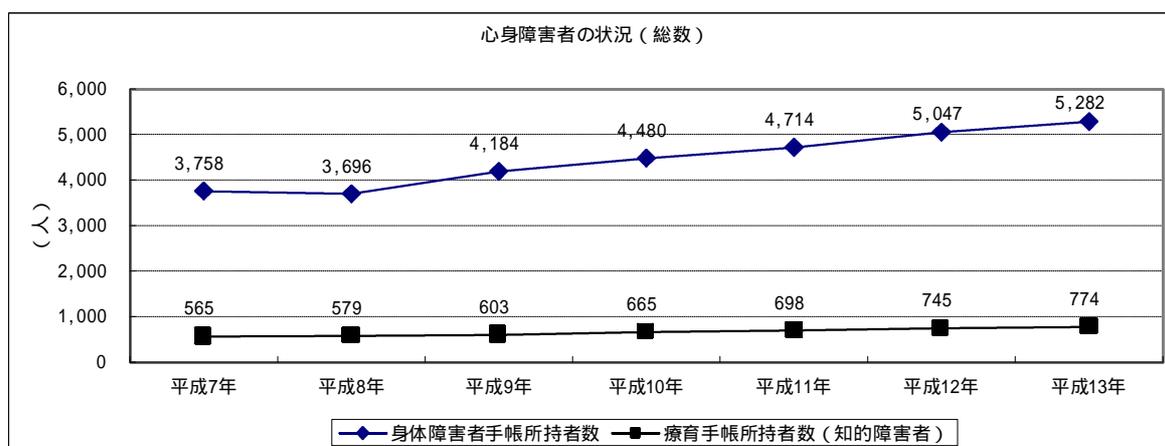


図 - 4 宝塚市における障害者の状況（単位：人） / 資料：宝塚市統計書（平成13年版）

2.4 産業

本市の産業別就業人口の推移を表 - 4 に示す。

昭和 55 年から平成 12 年までの 20 年間における伸び率 (H2 / S55) をみると、第 1 次産業人口は 0.72 と減少し、第 2 次産業人口、第 3 次産業人口はそれぞれ 1.02、1.41 を示し、第 2 次産業人口は横這いである一方、第 3 次産業人口は大きく増加していることがわかる。

(宝塚市)

産業分類	S 5 5 (人)	S 6 0 (人)	H 2 (人)	H 7 (人)	H 1 2 (人)	伸び率 (H12/S55)
第1次産業	1,576	1,462	1,339	1,210	1,131	0.72
第2次産業	22,729	23,174	24,828	24,956	23,097	1.02
第3次産業	51,202	57,765	63,297	68,091	72,351	1.41
合計	75,561	82,800	90,195	94,828	97,751	1.29

資料：国勢調査（各年10月1日）

(兵庫県全体)

産業分類	S 5 5 (人)	S 6 0 (人)	H 2 (人)	H 7 (人)	H 1 2 (人)	伸び率 (H12/S55)
第1次産業	123,182	106,675	84,851	78,825	63,913	0.52
第2次産業	839,495	840,154	878,606	869,988	788,846	0.94
第3次産業	1,344,259	1,439,139	1,554,059	1,632,542	1,698,171	1.26
合計	2,310,722	2,400,684	2,543,402	2,604,791	2,598,880	1.12

資料：国勢調査（各年10月1日）

表 - 4 産業別就業人口の推移

2.5 土地利用

市域は、北部を中心に農山村地域が広がり、阪急山本駅及び J R 中山寺駅付近では伝統的地場産業である植木産業を中心とした産業が展開されている。

南部地域の中央部は住宅地が広がり、J R 及び阪急宝塚駅を中心とし、鉄道の各駅周辺に商業地が分布している。

土地利用分類	面積(ha)	市街化区域内 構成比 (%)	市全域構成比 (%)
都市計画区域(市全域)	10,189	-	100.0
市街化区域面積	2,628	100.0	25.8
第1種低層住居専用地域	1,075	40.9	10.6
第2種低層住居専用地域	17	0.7	0.2
第1種中高層住居専用地域	739	28.1	7.3
第2種中高層住居専用地域	243	9.3	2.4
第1種住居地域	200	7.6	2.0
第2種住居地域	35	1.3	0.3
準住居地域	25	1.0	0.3
近隣商業地域	69	2.6	0.7
商業地域	62	2.4	0.6
準工業地域	116	4.4	1.1
工業地域	47	1.8	0.5
工業専用地域	-	-	-
市街化調整区域	7,561	-	74.2

資料：宝塚市統計書(平成13年3月末現在)

表 - 5 宝塚市における都市計画用途地域の状況

2.6 交通施設

(1) 道路網の状況

本市は中国自動車道、国道 176 号、県道及び市道からなる道路網で構成されている。

本市の都市計画道路は、昭和 27 年に 5 路線を決定して以来、昭和 44 年に都市計画法が全面改正なるまでに 16 線を追加決定し、法改正後 22 路線さらに追加し、現在では 43 路線、延長 55.45km に及んでいる。また、その整備状況は全体の 54.6 % にあたる 30.27km (H13.3.31 時点) を改良し、現在でも宝塚平井線、荒地西山線、尼崎宝塚線などの整備を進めている。

(2) 鉄道の状況

本市を通る鉄道は J R 福知山線、阪急宝塚線及び今津線があり、総駅数は 13 駅と多い。



図 - 5 宝塚市の鉄道

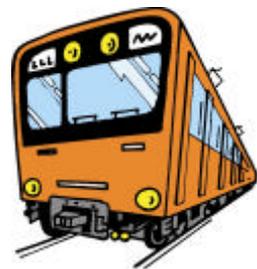
各駅の乗降客数の推移を表 - 6、図 - 6 に示すが、平成 12 年度の乗降客数は JR 宝塚駅で 60,496 人/日と最も多く、次いで阪急宝塚駅 49,816 人/日、阪急逆瀬川駅 30,860 人/日の順になっている。

特に、宝塚駅は乗り換え駅であるため多くの乗降客数を抱えている。

表 - 6 各駅の乗降客数の推移
西日本旅客鉄道（JR西日本）/ 福知山線
単位：人/日

調査年度	宝塚駅	中山寺駅	武田尾駅
S61	12,524	866	722
S62	14,666	960	900
S63	18,598	1,216	916
H元	22,022	1,482	1,104
H2	25,672	1,636	1,106
H3	29,532	2,608	1,254
H4	31,990	3,164	1,604
H5	36,346	3,876	998
H6	43,624	4,550	1,002
H7	49,204	5,688	990
H8	52,218	6,032	962
H9	56,710	7,728	1,188
H10	58,188	7,920	1,446
H11	59,436	8,314	1,442
H12	60,496	8,552	1,460

人数は、JR公表値（乗車人数）× 2 とした推計値。
中山寺駅のS61～H2、武田尾駅のS61は定期利用のみ。



阪急電鉄 / 宝塚線

単位：人/日

調査年度	宝塚駅	清荒神駅	売布神社駅	中山駅	山本駅	雲雀丘 花屋敷駅
S61	33,120	9,978	12,219	16,742	11,792	15,588
S62	35,103	10,237	12,162	17,338	12,174	15,923
S63	34,718	9,394	12,316	17,776	12,029	15,996
H2	35,640	10,117	11,562	19,250	12,705	15,881
H4	35,502	9,067	10,278	18,165	12,279	14,797
H7	40,686	8,363	8,561	16,754	13,278	13,304
H8	50,629	7,485	8,778	18,110	14,118	14,586
H9	52,487	8,638	8,855	19,660	15,328	14,297
H10	48,409	9,171	8,967	16,908	15,705	13,880
H12	49,816	8,566	11,705	15,802	18,829	15,244

資料：宝塚市統計書（阪急電鉄が各年11月頃に実施したものである。）

阪急電鉄 / 今津線

単位：人/日

調査年度	宝塚南口駅	逆瀬川駅	小林駅	仁川駅
S61	18,513	29,917	19,574	23,593
S62	16,644	33,999	19,194	24,120
S63	14,866	38,385	18,330	23,991
H2	16,521	34,598	18,331	24,361
H4	16,388	32,740	18,702	22,693
H7	11,640	31,047	18,204	21,781
H8	12,144	32,370	18,323	23,074
H9	11,916	32,657	19,677	23,370
H10	12,093	31,877	19,485	21,247
H12	11,837	30,860	22,428	21,703

資料：宝塚市統計書（阪急電鉄が各年11月頃に実施したものである。）

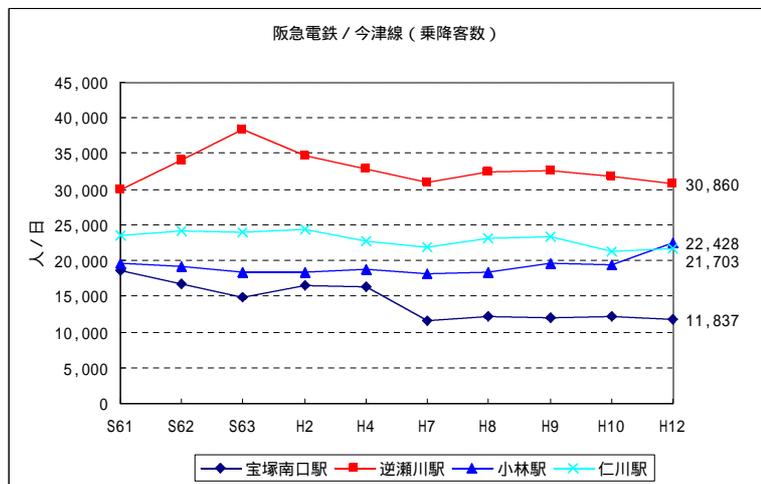
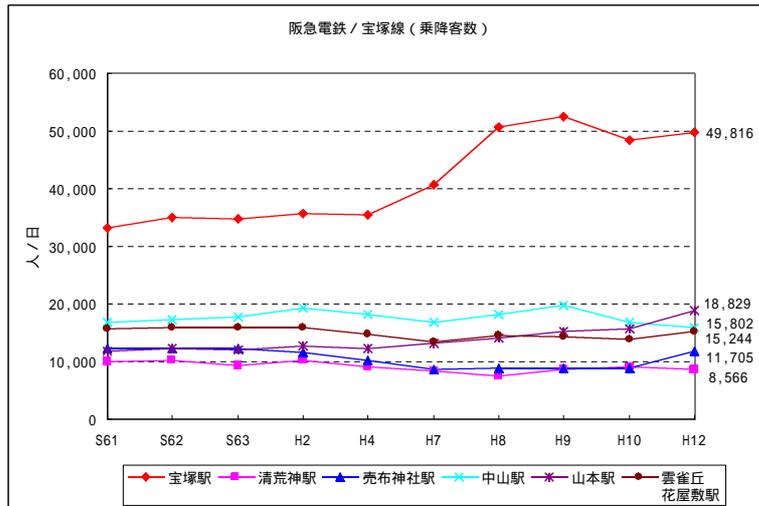
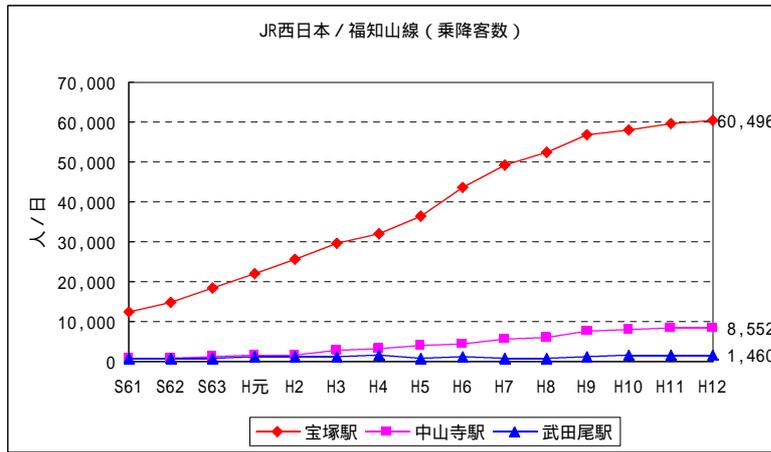


図 - 6 各駅の乗降客数の推移

(3) バス交通の状況

身近な移動手段として利用されているバスは、JR及び阪急宝塚駅、阪急逆瀬川駅を起点に、市役所、病院等の市内の主要施設、周辺住宅地を結んでいる。

現在は阪急バス、阪神バス、阪急田園バスの3社が路線を展開しているが、本市の多くは阪急バスの路線によるものである。



2.7 交通の特性

(1) 人の動き

本市及び周辺市町の流出入人口を国勢調査で見ると、夜間人口規模の差はあるものの周辺市町と比較して流出人口が非常に多く、人の動きについて非常に大きな規模を持った特性を有していることがわかる。一方、本市の流入人口規模は、流出人口の約1/2以下であり、特に従業人口の吸引力が低く、市内の産業基盤が観光、レクリエーションに特化している背景も見受けられる。

表 - 7 宝塚市及び周辺市町の人の動き

	流入人口 総数 (15歳以上)	流入人口 (通勤) (15歳以上)	流入人口 (通学) (15歳以上)	流出人口 総数 (15歳以上)	流出人口 (通勤) (15歳以上)	流出人口 (通学) (15歳以上)
宝塚市	23,814	20,707	3,107	74,832	64,750	10,082
伊丹市	35,842	34,006	1,836	57,378	49,941	7,437
川西市	15,763	15,334	429	53,809	46,488	7,321
三田市	14,955	12,281	2,674	25,490	22,596	2,894
猪名川町	2,347	2,055	292	9,835	8,357	1,478
兵庫県全体	1,224,811	1,038,641	186,170	1,474,038	1,270,736	203,302

資料：国勢調査（平成7年10月1日）

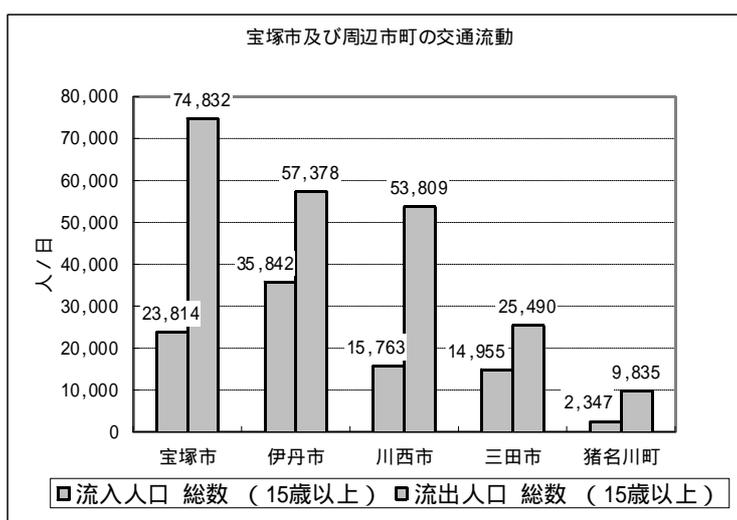


図 - 7 宝塚市及び周辺市町の人の動き



(2) 鉄道端末交通手段

各駅の鉄道端末手段別トリップをみると、JR及び阪急宝塚駅や阪急清荒神駅、阪急逆瀬川駅、阪急雲雀丘花屋敷駅など、駅周辺の地形特性において、高低差の大きな地域では、歩行者が多く自転車が少なくなることがわかる。

また、宝塚駅及び逆瀬川駅などのバスでのアクセスの利便性の高い駅では、駅端末交通手段としてバス交通が多く利用されているといえる。

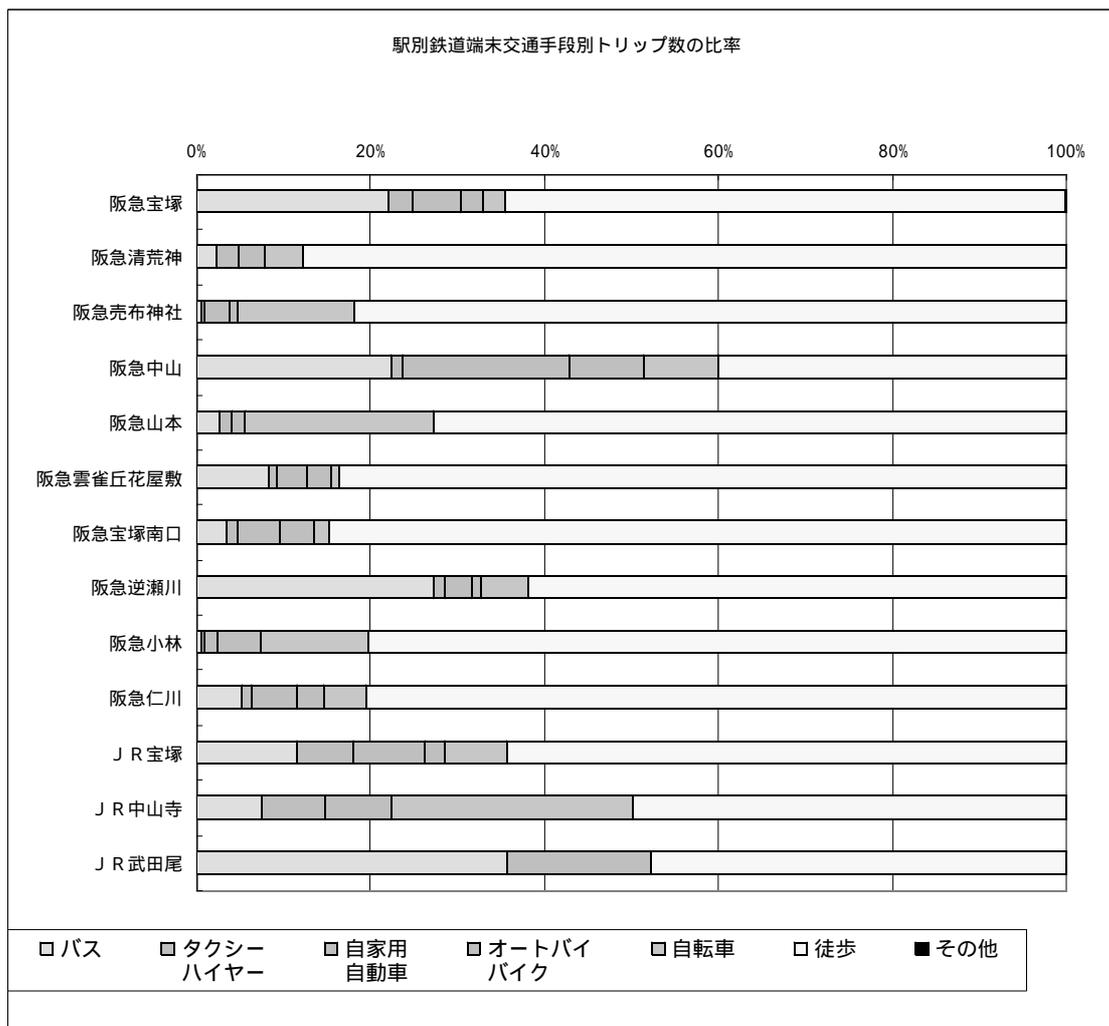


図 - 8 各駅の端末交通手段構成比 (資料：第3回京阪神都市圏PT調査)